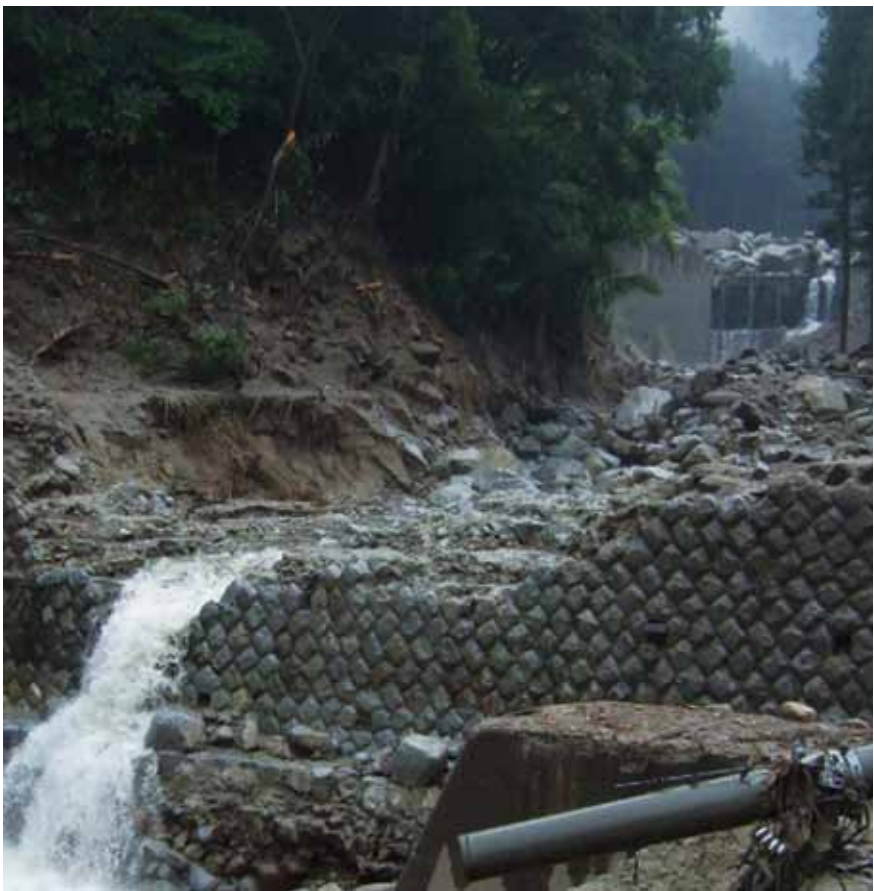


突然襲ってくる土砂災害

急傾斜地や川沿いは要注意

長雨や局地的豪雨では、河川や側溝などの増水に注意することはもちろんですが、急傾斜地や川沿いでは、土砂による災害にも注意しなければなりません。土砂による災害は、突然襲ってきて、甚大な被害を与えます。日頃から、住まいの状態や地域の地形などを把握し、大雨のときの危険を知っておいてください。

□問い合わせ 防災情報課 26-2111 (内線317)



▲7月の南木曽町の災害で土石流が発生した爪痕

山が水を含むと土砂災害も

山に囲まれ、斜面が多い本市では、一度大雨が降ると、河川に水が流れ、水位が一気に上がることがあります。また山が水を含むと、土砂災害にも警戒する必要があります。土砂災害には、斜面が崩れる「崖崩れ」、山などが崩壊したときに土や石が水と一緒に流れる「土石流」、地下水などが原因で滑る「地滑り」があります。

●**崖崩れ** 急傾斜地（傾斜角度30度以上で高さ5m以上）で、大雨や雪解け水などが地面に染み込み、緩んだ崖が分解しながら突然崩れ落ちる現象。崩れた土砂は、斜面の高さの3倍の距離まで届くこともあり、崩れてからでは逃げるのが困難です。

しいほど、崩れるスピードが速いのが特徴です。

●**土石流** 山の斜面から崩れた石や土砂、谷底にたまっていった砂利や石などが、大雨などの水と一緒に一気に下流へ押し流される現象。流れの急な川や沢がある場所で起こることが多く、すごい勢いで押し寄せます。

●**地滑り** 雨や雪解け水が、地下の粘土などの滑りやすく水を通しにくい地層の上に染み込み、斜面下方へ動く現象。斜面は土の塊の状態を維持し、家や畑などを載せたまま動きます。比較的傾斜が緩い斜面で、広い範囲にわたり起こるのが特徴です。

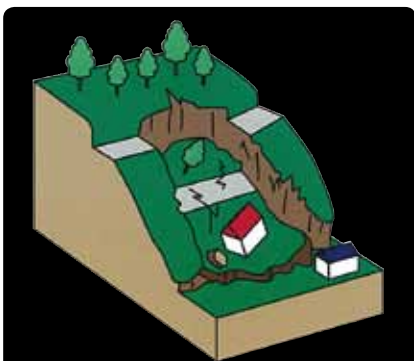
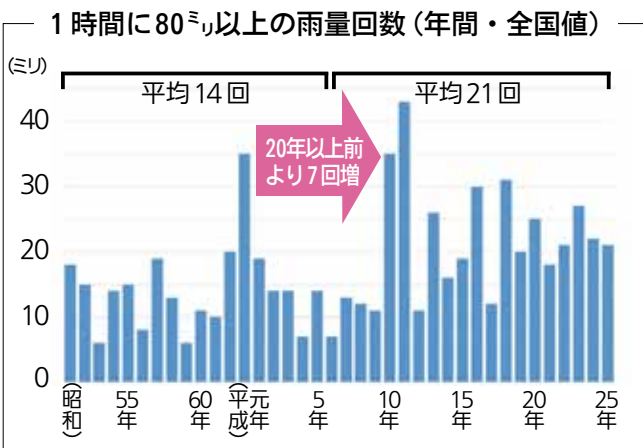
土石流が被害を大きくする

7月9日の台風8号による影響では、本市から30kmほどしか離れていない長野県木曽郡南木曽町の木曽川支流で大規模な土石流が発生。民家が流されて人的被害も出るなどの大惨事となりました。雨量は1時間に97mmを観測したといい、猛烈な雨が短時間で降ったこととなります。台風自体が来る2日前、局地的に降った豪雨だったこともあり、住民の心

気候変動で豪雨回数が増加

最近では、気候変動により、20年以上前と比べると、豪雨の回数が増えています。また局地的な豪雨による被害も増えています。今後も気温上昇や海面上昇などで豪雨の回数が増えれば、さらに災害が起きる可能性が高まります。

日頃から、住まいの状態や地域の地形などを把握し、大雨の際の危険を知っておく必要があります。市では、非常時にはできる限りの情報を提供しますが、自身でも危険を察知したら、避難することも視野に入れて行動し、身を守ってください。

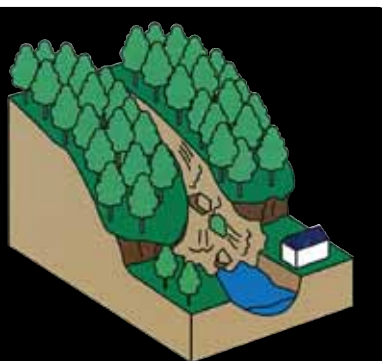


地滑り

雨や雪解け水が地下に染み込み、断続的に斜面が滑り出す現象

【前触れ】

- ①池の水が濁ったり減ったりする。
- ②山の樹木がざわざわと騒ぐ。木の裂ける音や木の根が切れる音がする。
- ③山鳴りや地鳴りがする。
- ④湧き水が増える。
- ⑤地面にひび割れができる。

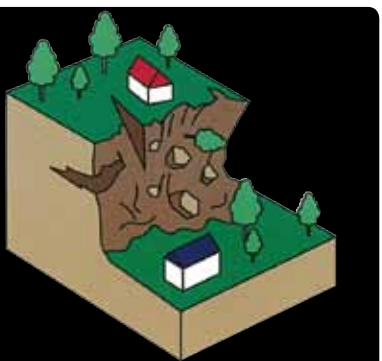


土石流

山や川の石、土砂が大雨などで水と一緒に激しく下流に流れる現象

【前触れ】

- ①川や沢の中でゴロゴロ音がしたり、火花が見えたりする。
- ②川や沢の水が濁り、山の木が流れてくる。
- ③山鳴りや地鳴りがしたり、異常な臭いがしたりする。
- ④川や沢の水が急に減る（上流が土砂でせき止められる）。



崖崩れ

雨や雪解け水、地震などの影響で急激に斜面が崩れ落ちる現象

【前触れ】

- ①崖から小石がパラパラ落ちてくる。
- ②樹木が揺れたり傾いたりする。
- ③斜面から水が湧き出る。
- ④斜面にひび割れができる。



▲山が崩れ川に流れ込んだ恵南豪雨災害

災害への備えは できていますか

あなたの家では、災害への備えができていますか。災害は命が危険にさらされたり、生活が一変したりする恐ろしいものです。家庭でも、「いざ」というときに備えるよう、避難の準備などを心掛けてください。

地形や近くの危険を把握

家の周りや通学路、生活する地域では、危険な箇所がありませんか。普段は穏やかに流れる川や側溝の水でも、大雨が降ったときには、一気に急変し、流れが速くなったり、道にあふれ出したりします。また急傾斜地や崖がある地域では、土砂災害の危険性もあります。普段から、雨が降ったときの水の流れや、水がたまる場所などを把握しておいてください。

役立つ防災情報を参考に

市では、災害を想定したマニュアルやハザードマップ（災害の被害を予測して、被害範囲を地図にしたもの）を作っています。地域ごとに地図が分かれていますので、対象の地

区のものをご参考にしてください。防災マニュアルやハザードマップは、防災情報課や各振興事務所にあります。市ウェブサイト（<http://www.city.ana.jp/>）からも入手できます。

●防災マニュアルと防災マップ

地震災害や風水害から身を守るための情報を掲載。表面には、土石流災害が起きやすい地形や家屋の防災チェック、避難、非常持ち出し品と備蓄品、地震対策などが記載されています。裏面は防災マップで、避難所の他、土石流危険区域や地滑り危険箇所、ヘリポートなどが地図に示されています。

●土砂災害ハザードマップ

地域ごとに航空写真と地図で、土砂災害の恐れがある場所を掲載。土砂災害の特別警戒区域や警戒区域、地滑り危険箇所などが、色を使って分かりや



▲防災マニュアルと防災マップ（下・左上）、土砂災害ハザードマップ（右上）

すく表示されています。裏面は、土砂災害の種類や危険度の紹介、避難方法、非常持ち出し品のチェック表などが記載されています。

大井町と長島町、東野、三郷町、武並町のハザードマップは本年度に作製する予定です。

●洪水ハザードマップ

阿木川と小里川を中心とし、支流を含め、洪水が起きる可能性がある地域を地図に掲載。早期に浸水しそうな場所や川の流れが速い場所なども示されています。その他、サイレンの鳴り方や雨の降り方の目安、河川水位と避難の関係なども記載されています。

●ぎふ山と川の危険箇所マップ

県がインターネットで山や川の危険箇所を公開しています。対象の地区を郵便番号で検索し、表示された地図を拡大して、より詳しく確認することができます。

避難時の心得

非常持ち出し品を事前に準備

避難するときの荷物は、必要最低限とし、事前に準備してください。主な非常持ち出し品は、4ページの表を参考にしてください。

帽子を着用し動きやすい格好

避難するときは、なるべく動きやすい格好で、ヘルメットや帽子などをかぶり、2人以上での避難を心掛けてください。

正確な情報収集と自主避難を

ラジオやテレビで、最新の気象や災害、避難の情報に注意してください。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難してください。

避難する前に火元などを確認

避難する際は、電気やガスなどの火元を消し、避難所を確認してください。親戚や知人などにも避難する旨を連絡してください。戸締まりも忘れずに。

高い道路を選び溝などに注意

できるだけ高い道路を選び、浸水場所があったときは、溝や水路に注意して避難してください。崖地では土砂災害に注意してください。

とき：8月31日(日)午前8時
ところ：市内各地域
テーマ：「地域の力が命を守る」

防災訓練

防災行政無線と各家庭の音声告知器で、地震発生のサイレンを鳴らしてお知らせします。



▶各地区で訓練などを実施

災害で慌てないためにも訓練を



市自治連合会
会長 神尾寛和さん
(中野方町)

東日本大震災や平成23年の中部地方での局地的豪雨が起こった直後には、危機感がありましたが、最近ではみんなの意識が薄れている気がします。ことしは、地域で必要な訓練を行うことになっています。まず初めに避難する一時避難の場所をどこにするかなど、自分たちが助かる方法を全員が考えてほしいです。いざというときに慌てないためにも参加してください。

主な非常持ち出し品



- 食料（乾パン、飲料水、缶詰と缶切り、紙皿など）
- 携帯ラジオ、懐中電灯、予備の電池
- 医薬品（ばんそうこう、傷薬、包帯、胃腸薬、鎮痛剤など）
- 免許証、健康保険証、各種権利証書など
- 現金（硬貨も用意）、預金通帳など
- 衣類、生活日用品（衣服、タオル、洗面用具、下着、紙おむつなど）
- 雨具、軍手、ヘルメット、防災頭巾、マッチなど

※非常持ち出し品は、各家庭や個人によって必要な物が違います。避難の妨げにならない程度にまとめ、持ち出しの優先順位を決めるなどして準備をしておいてください
※非常持ち出し品は、ホームセンターやショッピングセンターなどで買うことができます